



恐竜の化石がいちばんあるのは、どこなの

くさらずに残った骨が化石になった

生き物の死体は、ほかの動物に食われたり、土の中の微生物などのはたらきで、骨までくさって何も残りません。運よく、川や海の底など、温度が低くて、空気にもふれていない所に死体があったときだけ、その骨がくさらずに残ります。この骨が、長い間に積もったどろや砂の下で、重さにおされて、少しずつ骨の成分が石の成分におきかえられて、化石になります。砂ばくのように水分がない所では、やはり、死体がくさらずにミイラのようになったり、化石になって残ることがあります。

恐竜時代に、川や海の底、砂ばくだった所に多い

恐竜の化石がよく見つかるのは、恐竜がいたころ、川や海の底だったり、砂ばくだった所です。日本列島も、恐竜時代は、中国大陸と一部がつながっていて、残りの部分は浅い海の底だったので、恐竜がよく見つかる地層が、各地にあります。日本では、石川県、福井県あたりが、いちばん多く見つかっています。研究が進めば、もっと見つかるでしょう。

北アメリカ、中国、ロシアが3大恐竜化石産出地

世界では、北アメリカと中国、ロシアが3大恐竜産出地といえます。恐竜時代には、ロシア、北アメリカ、日本の一部もふくめたアジア大陸は、シベリアで一つにつながってましたから、同じような恐竜の仲間が、今ははなれた場所で見つかったても、不思議ではありません。

北アメリカとカナダでは、多くの種類の恐竜の化石が見つかっています。最近も、ティラノサウルスのほぼ完全な化石が見つかりました。日本の調査隊も参加して、中国でも熱心に発掘が行われています。とくにゴビ砂ばくの恐竜が有名です。

(監修・今泉 忠明)

